

令和5年度 豊田市地域自立支援協議会第1回全体会 議事録

■日 時 令和5年7月12日（金）午後1時30分から午後3時30分まで

■場 所 豊田市役所 大会議室1

■出席者

＜委員 20名＞

平野隆之（会長）、阪田征彦（副会長）

那須江身子、三宅やすよ、磯部茂子、鈴木誠子、小坂繁、稲垣徹、東恵子（代理）、松井純一（代理）、森下尚志、鈴木雅樹、神谷真巳、西村多恵、高木志郎、辻望美、井上亘、成瀬智、金田光、勝野二徹

＜担当者会議 5名＞

国松佐知、中村結香、勝田康裕、渡辺裕矢、殿内勝夫

＜ブロックリーダー 4名＞

久保直子、丸山千恵子、稲見洋佑、黒田悠介

＜事務局＞

豊田市 福祉部 障がい福祉課

■欠席者

＜委員 2名＞

小田康夫、新井弘樹

■内容（要約）

1 あいさつ

○豊田市地域自立支援協議会 平野会長

2 地域共生社会推進全国サミットと知っておきたい100のこと

○事務局

資料に沿って説明

3 議題

（1）医療的ケア児の学校卒業後の支援について

○医療的ケア児者等支援部会 渡辺部会長

資料1に沿って説明

併せて、資料3—2【医療的ケア児者等支援部会】事業計画兼実績報告書の説明

○平野会長

事業計画兼実績報告書 取組③の本人へのヒアリングは既に実施されているか。

○渡辺部会長

ヒアリング項目が決まり、1カ月の遅れとなるが8月に実施していく。

○平野会長

特別支援学校の委員に意見をいただきたい。

○高木委員

児童一人ひとり医療的ケアの内容が異なり、実際に児童の状況を伝えると卒業後の進路先から対応が難しいと断られることもある。

○井上委員

三好特別支援学校は知的障がい主である。医療的ケア児はいない。しかし、発作等があり、今後必要となる可能性がある。その際は相談をお願いしたい。

○辻委員

豊田高等特別支援学校は軽度の知的障がい比較的多い。医療的ケア児はいないが、脳腫瘍がある生徒等には、今後、必要となる可能性はある。報告を受けて参考にしていきたい。

○渡辺部会長

豊田市小中学校医療的ケア検討委員会に出席し、特別支援学校のみならず、豊田市立の学校にも医療的ケアが必要な生徒が13名程いると確認している。今後、さらに増えてくると認識している。

(2)【情報提供】生活困窮支援に係る障がい者の実態について

○豊田市社会福祉協議会 暮らし応援課 八木氏

豊田市 福祉部 福祉総合相談課 伊豫田氏、加藤氏

資料2に沿って説明

○平野会長

生活困窮支援に係る障がい者の割合は、障がい者手帳保有者が3割、手帳は保有していないがグレーゾーンな方2~3割とのことだが、母数は何名か。

○豊田市社会福祉協議会 八木氏

令和4年度の相談件数が延べ4600件弱となっている。

○豊田市 福祉部 福祉総合相談課 伊豫田氏

令和4年度の実績として、支援調整会議を経て支援プランを作成した件数は172件である。お金が無いと相談される方の半数は、本人や家族に何らかの障がいがある、若しくはその疑いがあるのが実態である。

○平野会長

就労準備支援事業をとよた多世代参加支援プロジェクトが受けているとのことだが説明

をいただきたい。

○豊田市 福祉部 福祉総合相談課 加藤氏

豊田市独自で、地域から孤立している方に対して、本人の特性や希望に合わせて地域に居場所づくり「参加支援事業」を行っている。その先のステップとして、就労支援に繋がっていくとの認識から多世代参加支援プロジェクトと協定を結んでいる。

○阪田副会長

令和5年4月から支援調整会議に参加しているが、課題が多いと感じるケースはベースに障がいが必要にあると感じる。その為、障がい相談と一緒に支援した方が効果的と思われるケースは、関係機関に繋いで連携を図っている。

○中村部会長

生活困窮支援に来られる相談者の一定割合が障がい手帳を保有していることは理解しているが、生活困窮で相談に来ているので、まずは生活困窮の相談窓口で困り事を聴取し、必要に応じて障がいの視点を持って関わり、お互い共有していく必要がある。

○久保北部ブロックリーダー

本人のみならず家族に障がいがあるというケースもある。色々な関係機関と横の繋がりを持ちながらスムーズに支援ができたらと考えている。

○勝野委員

生活保護の申請者においても、障がいの特性に起因していると思われる方は一定数いる。

○平野会長

障がい分野と他制度の支援分野の抱える各々の課題を連携させながら検討していけたらと考える。

4 報告

(1) 豊田市地域自立支援協議会の取組と今年度の事業計画等について

○事務局

資料3-1に沿って説明

○国松担当者会議議長

令和4年度の課題から、障がい福祉全体の支援力の底上げと連携し合える環境を作っていくこと、また相談支援の在り方を獲得することを目的として事業計画等に盛り込み、計画し取り組んでいく。

○各部会長・ワーキンググループ・ブロックリーダーから資料に沿って説明

資料3-2に沿って説明

○平野会長

南部ブロックにて5月開催の相談支援力向上研修「本人の想いをきくということ」について教えていただきたい。

○稲見南部ブロックリーダー

相談支援専門員の質の向上を目的として、成瀬委員に講師として来ていただき、講義とグループワークを通して、自身の相談について立ち返る機会を持った。

○成瀬委員

相談に来られた障がい児者の会話の背景にある本当の想いをしっかりと聞くが大切であると講義させていただいた。

○平野会長

全体を通して何か意見あるか。

○鈴木雅樹委員

相談者が地域で生活していくためにどのように支援していくか考えると、障がいの相談員や生活困窮の相談員が連携していくことが大切と考える。

(2) 第5次豊田市障がい者ライフサポートプランの進捗について

資料4に沿って説明

意見なし

5 その他連絡事項など

閉会